

大分市長特別講義

演題：大分の医療や介護の課題と今後の取り組み

日時：令和5年10月31日（火）10:00～11:00

場所：大分大学挾間キャンパス 臨床大講義室

one
オール市民でまちを創る
team
ワンチーム
おおいた
OITA

世代も性別も職種もこえて
みんなのチカラをひとつに。
理想のまちがこれからはじまる。

大分市長 足立 信也

大分市長プロフィール



足立信也（あだち しんや）

生年月日 1957年（昭和32年）年6月5日

出身地 大分市上戸次

趣味 スポーツ観戦

座右の銘 紅蓮（Warm Heart Cool Head）

学歴

- 1976年（昭和51年） 大分県立大分舞鶴高等学校 卒業
- 1982年（昭和57年） 筑波大学医学専門学群 卒業
- 1990年（平成 2年） 医学博士（筑波大学）

職歴

- 1982年（昭和57年） 筑波大学附属病院医員（研修医）
- 1984年（昭和59年） 筑波大学附属病院医員
- 1988年（昭和63年） きぬ医師会病院外科診療科長
- 1994年（平成 6年） 筑波大学臨床医学系外科講師
- 2003年（平成15年） 筑波大学臨床医学系外科助教授
- 2003年（平成15年） 国立霞ヶ浦病院消化器科医長
- 2004年（平成16年） 筑波メディカルセンター病院診療部長
- 2004年（平成16年） 第20回参議院議員選挙（大分県選挙区）で初当選
- 2010年（平成22年） 第22回参議院議員選挙（大分県選挙区）で2期目当選
- 2011年（平成23年） 筑波大学客員教授
- 2016年（平成28年） 第24回参議院議員選挙（大分県選挙区）で3期目当選
- 2022年（令和 4年） 一般社団法人 新時代戦略研究所 研究顧問
- 2023年（令和 5年） 大分大学客員教授
- 2023年（令和 5年） 大分市長就任

医学を志す若者へ贈る言葉

「君達は大変困難な道を選択した。

一生 勉強し続けなければならない。」

【榊原 仟（さかきばら しげる） 筑波大学 副学長】

「10年後に当たり前になる治療を研究しなさい」

【岩崎 洋治（いわさき ようじ） 筑波大学 教授】

「Creative mind and judicious mind」

【江崎 玲於奈（えさき れおな） 筑波大学 学長】

※ 1973年（昭和48年）ノーベル物理学賞を受賞（「半導体内におけるトンネル現象に関する実験的発見」）

県内の人口の状況（直近1年間）

出典：「第1回新しいおおいた共創会議」

市町村	R4.7月～R5.7月人口動態											
	R4.7人口	R5.7人口	人口増減	増減率	出生	死亡	自然増減	自然増減による増減率	転入	転出	社会増減	社会増減による増減率
県合計	1,107,821	1,097,919	-9,902	-0.89%	6,675	17,002	-10,327	-0.93%	41,209	40,784	425	0.04%
大分市	474,516	472,887	-1,629	-0.34%	3,416	5,443	-2,027	-0.43%	15,040	14,642	398	0.08%
別府市	113,844	113,348	-496	-0.44%	601	1,825	-1,224	-1.08%	5,990	5,262	728	0.64%
中津市	82,137	81,966	-171	-0.21%	546	1,205	-659	-0.80%	4,614	4,126	488	0.59%
日田市	61,013	59,912	-1,101	-1.80%	345	1,128	-783	-1.28%	1,829	2,147	-318	-0.52%
佐伯市	64,723	63,296	-1,427	-2.20%	276	1,270	-994	-1.54%	1,507	1,940	-433	-0.67%
臼杵市	34,807	34,224	-583	-1.67%	146	681	-535	-1.54%	920	968	-48	-0.14%
津久見市	15,314	14,796	-518	-3.38%	45	360	-315	-2.06%	287	490	-203	-1.33%
竹田市	19,515	18,969	-546	-2.80%	64	442	-378	-1.94%	569	737	-168	-0.86%
豊後高田市	21,915	21,691	-224	-1.02%	113	395	-282	-1.29%	1,034	976	58	0.26%
杵築市	27,017	26,455	-562	-2.08%	120	516	-396	-1.47%	968	1,134	-166	-0.61%
宇佐市	51,431	50,803	-628	-1.22%	261	990	-729	-1.42%	1,965	1,864	101	0.20%
豊後大野市	32,609	31,860	-749	-2.30%	105	749	-644	-1.97%	1,087	1,192	-105	-0.32%
由布市	32,466	32,261	-205	-0.63%	242	513	-271	-0.83%	1,903	1,837	66	0.20%
国東市	25,358	24,949	-409	-1.61%	99	601	-502	-1.98%	1,493	1,400	93	0.37%
姫島村	1,626	1,571	-55	-3.38%	3	34	-31	-1.91%	34	58	-24	-1.48%
日出町	27,491	27,376	-115	-0.42%	187	371	-184	-0.67%	1,133	1,064	69	0.25%
九重町	8,197	7,990	-207	-2.53%	32	195	-163	-1.99%	270	314	-44	-0.54%
玖珠町	13,842	13,565	-277	-2.00%	74	284	-210	-1.52%	566	633	-67	-0.48%

・令和5年7月1日現在の人口：1,097,919人

・この1年で
内訳として
自然増減 ▲10,327人（全市町村において減少）
社会増減 +425人（8市町村で増加、10市町村で減少）

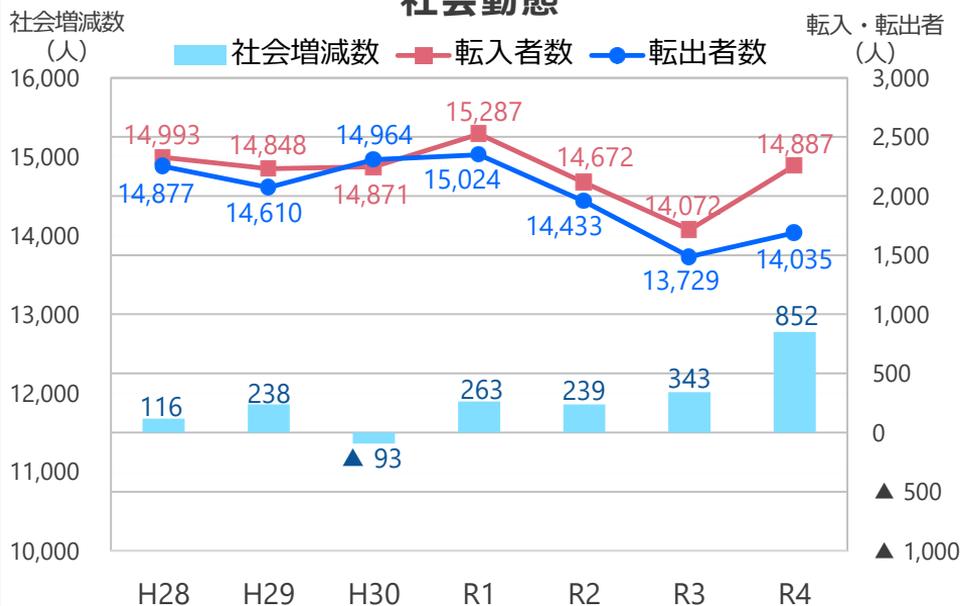
大分市の人口の状況

大分市の人口 **472,887人** (令和5年7月1日現在)

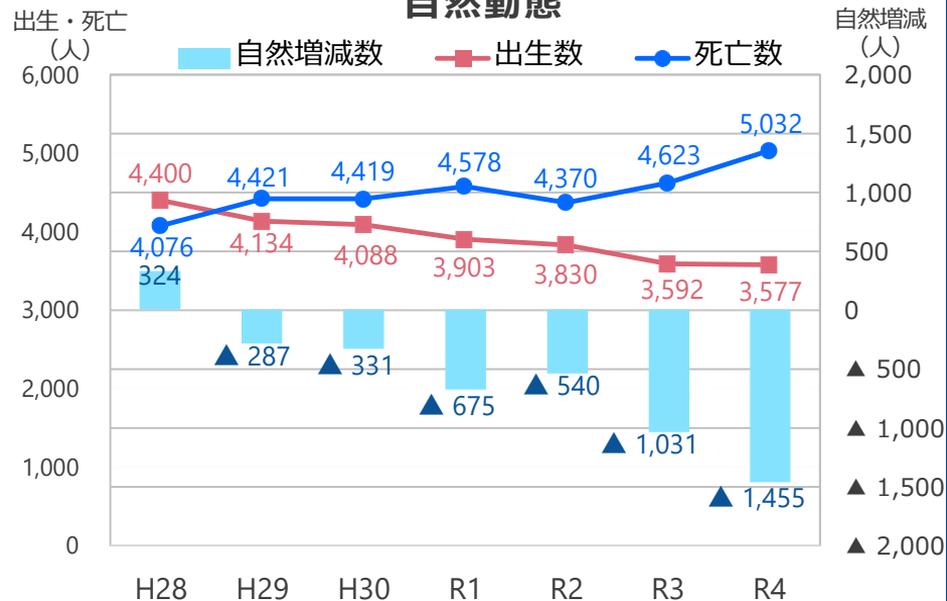
※資料：「大分県の人口推計」

前年同月比 **-1,629人** (社会動態 +398人、自然動態 -2,027人)

社会動態



自然動態



資料：大分県「大分県の人口推計報告 令和4年版」※各年10月1日時点

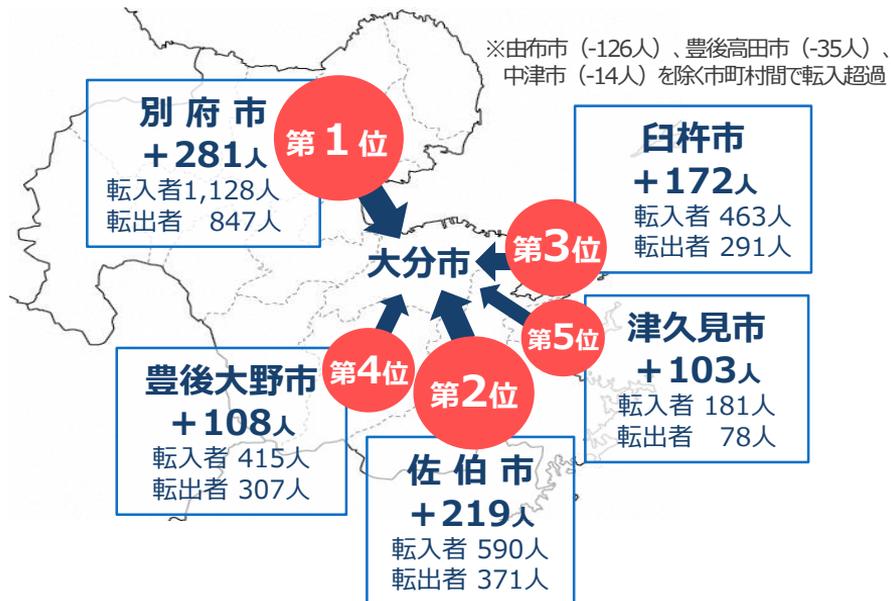
大分市の人口の状況

資料：大分県「大分県の人口推計報告 令和4年版」

県内他市町村との人口移動

1,100人の転入超過

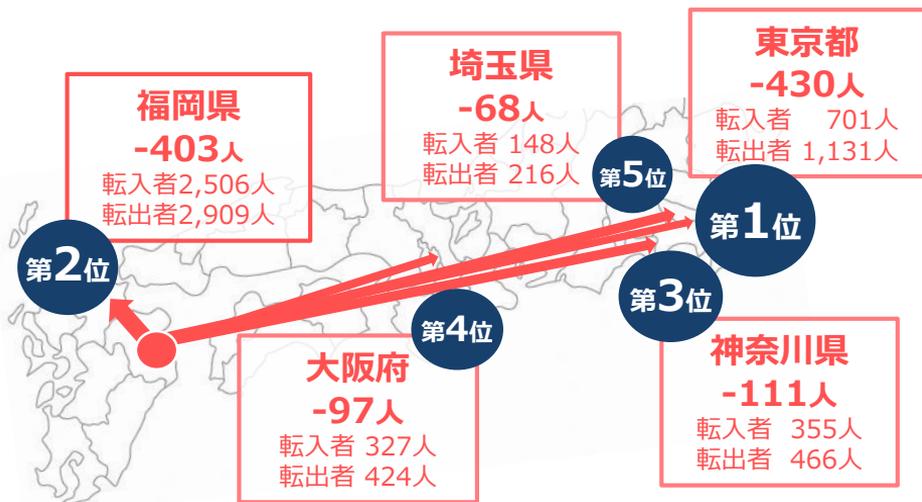
(男性：+ 529人、女性：+ 571人)



大分県外との人口移動

261人の転出超過

(男性：-108人、女性：-153人)



※転出超過人数の年齢区分で最も多いのは「20～24歳」

※ 前住地または転出先が不明の者 13人 (転入者:38人、転出者:25人) を含まない。

大分市への移住者の状況

資料：大分市おいた魅力発信局調べ

大分市への移住者数

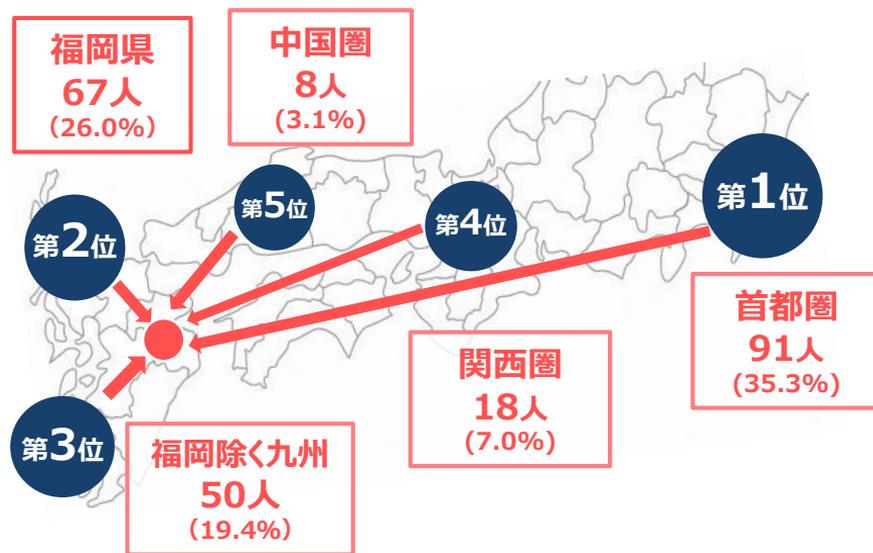
県内市町村**1位** 過去最高の**258人**
(男性：127人、女性：128人、不明：3人)

大分市移住者数の推移



移住前の住所内訳

首都圏からの移住者が**35%超**



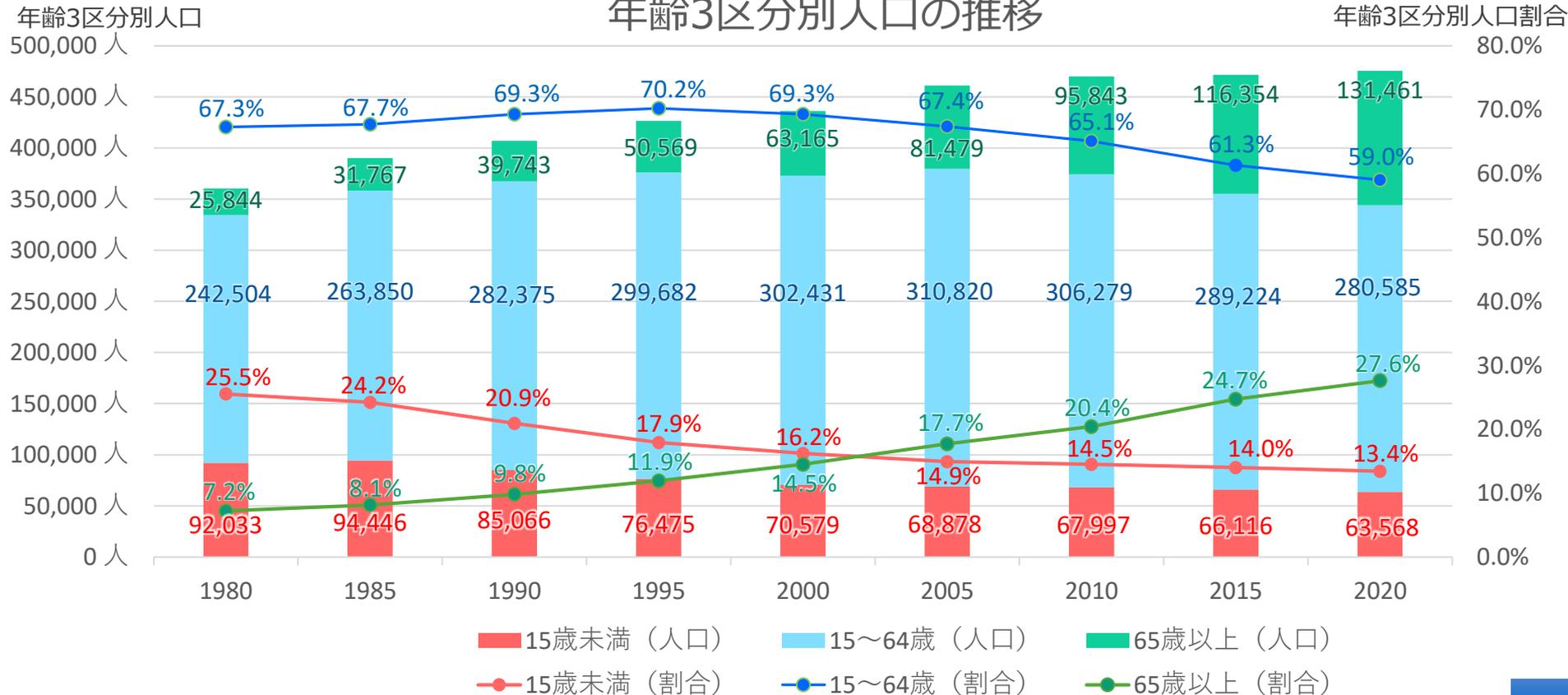
※移住者のうち「**30歳代以下**」が**約70%**、世帯においては「**子育て世帯**」が**約35%**

大分市の人口の状況

資料：総務省統計局「国勢調査」

年齢3区分別人口の推移

年齢3区分別人口割合



「ひとが真ん中。」

ひとを守る

自然災害や感染症などのリスクをあらゆる角度から想定し、被害を最小限に抑え、市民の生命と財産を守ります。

ひとを育む

妊娠・出産・子育てから大学などの高等教育まで切れ目のない支援で、誰もが安心して子どもを産み育てることができる環境をつくります。

ひとを支える

少子高齢化による地域コミュニティの衰退などに備え、誰もが役割を持ち、お互いに支え合い、自分らしく輝ける社会の実現をめざします。

ひとを豊かに

市民生活の向上と心豊かな暮らしを実現します。また、このまちを次世代へ引き継ぐため、持続可能なまちづくりを進めます。

ひとを元気に

人とまちが元気に輝き続けられるよう、新たな魅力が生まれるまちづくりを進めます。

ひとを守る・支える

医療・介護の現状について

医療崩壊とは何か？

崖っぷちの医療

医療費抑制（医療人材削減策）

医療への不信（不満・医療訴訟）

①医療人材養成、確保のスキーム

②医療への安心・納得を高める

患者の権利を謳う
全ての医療事故を対象とする
説明と対話の促進

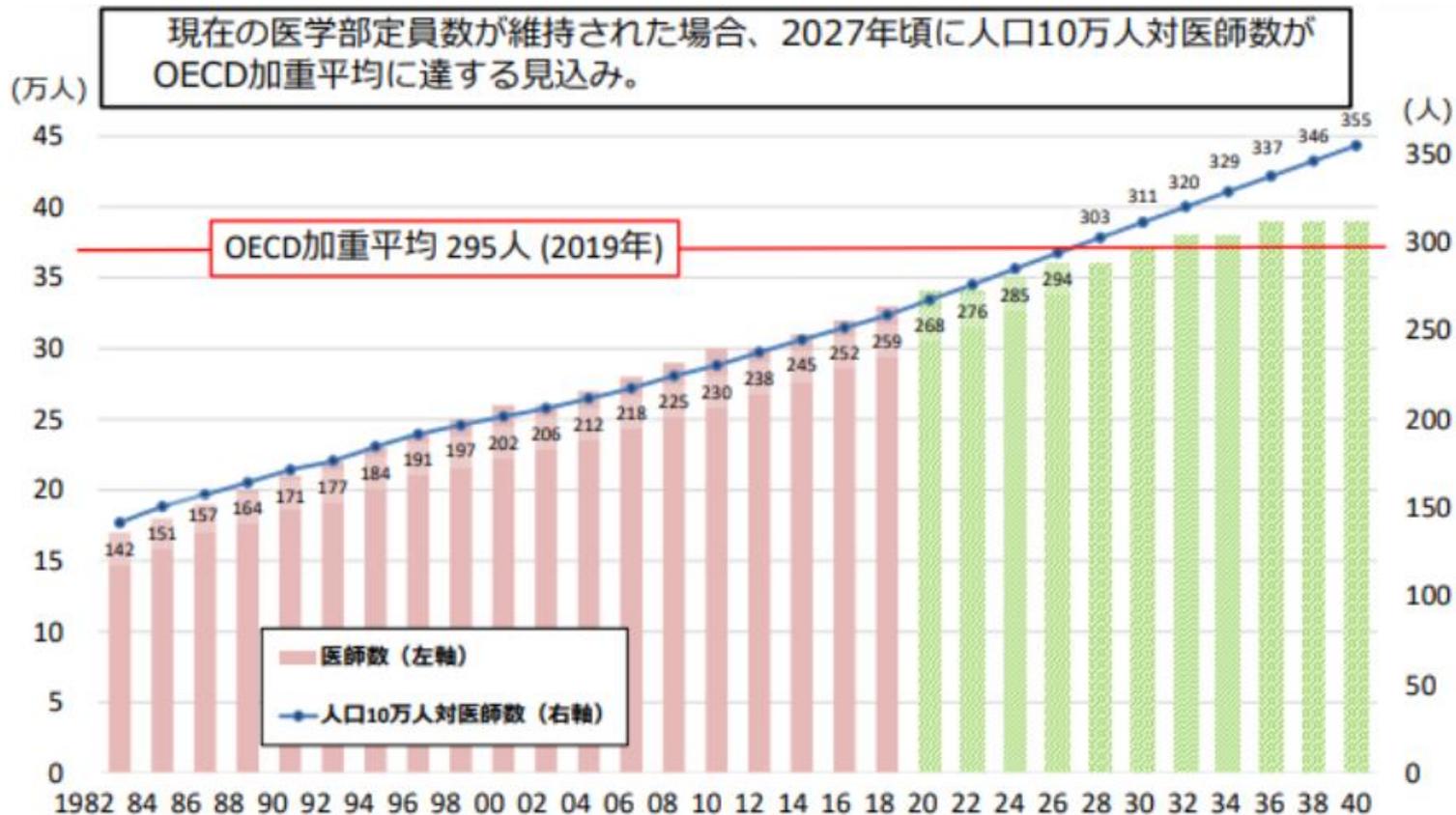
- ・ 病院内医療メディエーター
- ・ 対話型ADRによる和解

③事故に対する迅速な救済・補償

結果の重大さによる補償
過失認定は不要
求償を認めない
訴訟提起権とは区別する
報告書の事実認定の利用

国内の医師数は他の先進国並みに

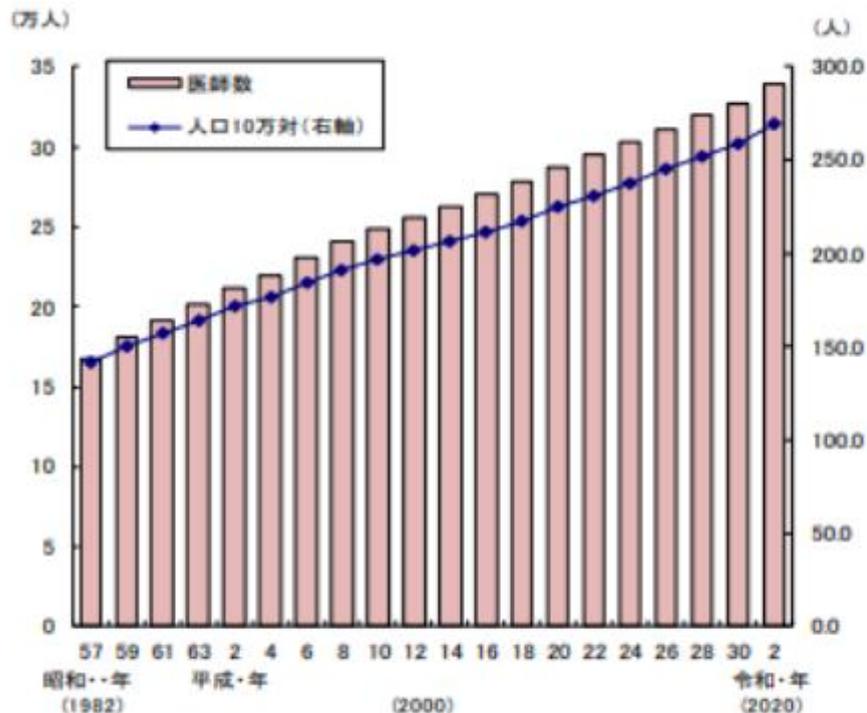
◆人口10万人あたりの医師数の年次推移および将来推計



国内の医師数の年次推移

◆約40年前に比べ、医師数は**2倍を超える増加**（167,952人 → 339,623人）

	医師数 (人)	増減率	人口 10万対 (人)
		(%)	
昭和 57 年 (1982)	167 952	---	141.5
59 ('84)	181 101	7.8	150.6
61 ('86)	191 346	5.7	157.3
63 ('88)	201 658	5.4	164.2
平成 2 年 ('90)	211 797	5.0	171.3
4 ('92)	219 704	3.7	176.5
6 ('94)	230 519	4.9	184.4
8 ('96)	240 908	4.5	191.4
10 ('98)	248 611	3.2	196.6
12 (2000)	255 792	2.9	201.5
14 ('02)	262 687	2.7	206.1
16 ('04)	270 371	2.9	211.7
18 ('06)	277 927	2.8	217.5
20 ('08)	286 699	3.2	224.5
22 ('10)	295 049	2.9	230.4
24 ('12)	303 268	2.8	237.8
26 ('14)	311 205	2.6	244.9
28 ('16)	319 480	2.7	251.7
30 ('18)	327 210	2.4	258.8
令和 2 年 ('20)	339 623	3.8	269.2

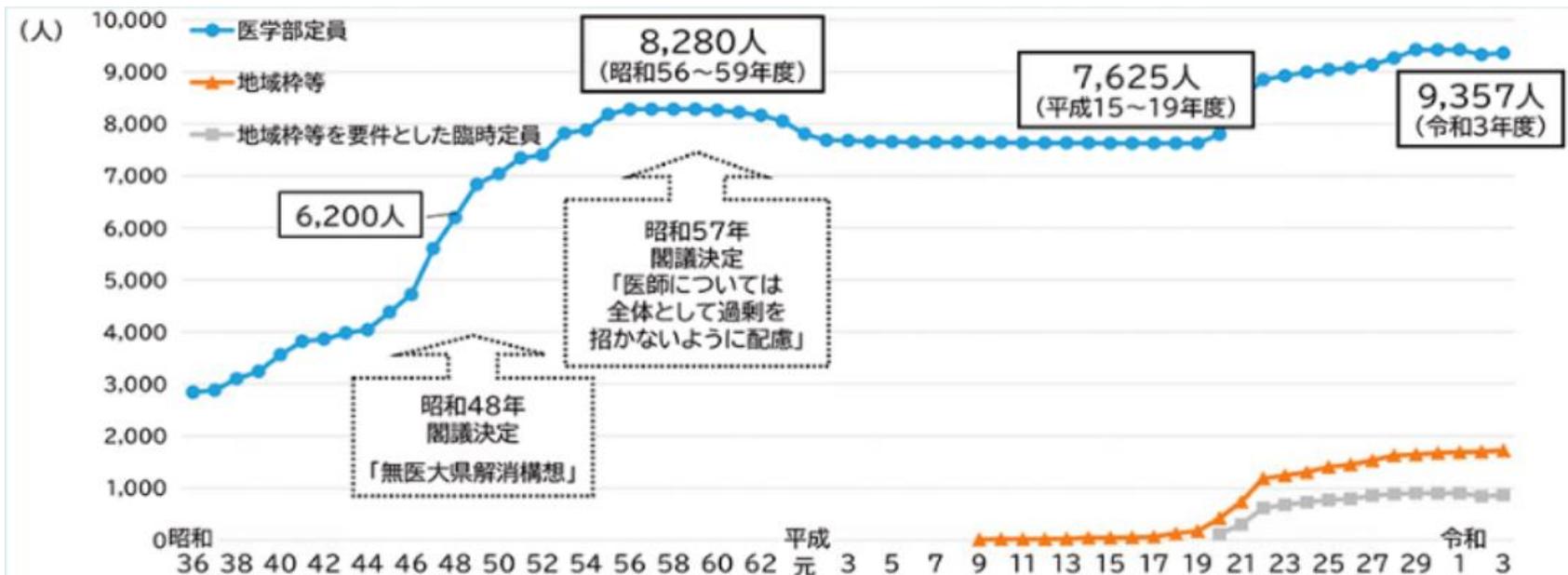


※資料：令和2(2020)年医師・歯科医師・薬剤師統計の概況

医学部入学定員と地域枠の年次推移

◆医学部の定員で総数をコントロール

※資料：令和4年版 厚生労働白書



	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3
医学部定員	7625	7793	8486	8846	8923	8991	9041	9069	9134	9262	9420	9419	9420	9330	9357
医学部定員(自治医科大学を除く)	7525	7683	8373	8733	8810	8868	8918	8946	9011	9139	9297	9296	9297	9207	9234
地域枠等	173	418	736	1186	1242	1304	1406	1450	1531	1627	1645	1674	1687	1695	1723
地域枠等の割合	2.3%	5.4%	8.8%	13.6%	14.1%	14.7%	15.8%	16.2%	17.0%	17.8%	17.7%	18.0%	18.1%	18.4%	18.7%
地域枠等を要件とした臨時定員	0	118	304	617	676	731	770	794	858	886	904	903	904	840	865
地域枠等を要件とした臨時定員の割合	0%	1.5%	3.6%	7.1%	7.7%	8.2%	8.6%	8.9%	9.5%	9.7%	9.7%	9.7%	9.7%	9.1%	9.4%

国内の医療資源は地域で差がある（西高東低）

◆都道府県別の医師数（人口10万人あたり医療施設従事者） ※大分県287.1（全国平均256.6）

	都道府県	医師数
1位	徳島	338.4
2位	京都	332.6
3位	高知	322.0

	都道府県	医師数
45位	新潟	204.3
46位	茨城	193.8
47位	埼玉	177.8

※出典：「令和2（2020）年医師・歯科医師・薬剤師統計の概況」統計表15

◆都道府県別の医療施設数（人口10万人あたり一般診療所数） ※大分県86.2（全国平均83.1）

	都道府県	一般診療所数
1位	和歌山	111.7
2位	島根	106.6
3位	長崎	103.9

	都道府県	一般診療所数
45位	沖縄	62.1
46位	千葉	61.2
47位	埼玉	60.9

※出典：厚生統計要覧（令和4年度）第2-26表

本市の医師・歯科医師・薬剤師数など

◆大分市の医師・歯科医師・薬剤師数は、中核市の平均をすべて下回っている。

項目	病院数		病床数 (病院及び診療所)		人口10万人 当たり 病床数	一般 診療所数	歯科 診療所数	医師数		歯科医師数		薬剤師数	
	うち市立	うち市立	うち市立	うち市立				(令和2年12月31日現在)	人口10万人 当たり	(令和2年12月31日現在)	人口10万人 当たり	(令和2年12月31日現在)	人口10万人 当たり
市名	箇所	箇所	床	床	床	箇所	箇所	人	人	人	人	人	人
大分市	53	-	8,908	-	1,869.9	397	230	1,336	280.4	318	66.8	1,061	222.7
中核市の平均	26	1	5,309	428	1,504.4	315	195	1,147	320.1	316	86.7	971	265.1

※資料：中核市市長会 都市要覧（令和4年度）

大分市の高齢者年齢別人口

◆市全体における65歳以上の割合は28%で、うち75歳以上が50%を超える

令和5年6月(134,529/475,368人≒28%)				
年齢	男性	女性	合計	
65～69	13,908	15,808	29,716	48%
70～74	16,361	18,905	35,266	
75～79	11,993	14,838	26,831	52%
80～84	8,280	11,393	19,673	
85～89	4,764	8,540	13,304	
90～94	2,075	5,027	7,102	
95～99	445	1,828	2,273	
100以上	31	333	364	
合計	57,857	76,672	134,529	

※資料：住民基本台帳人口（令和5年6月末時点）

大分市の地区別の高齢化率

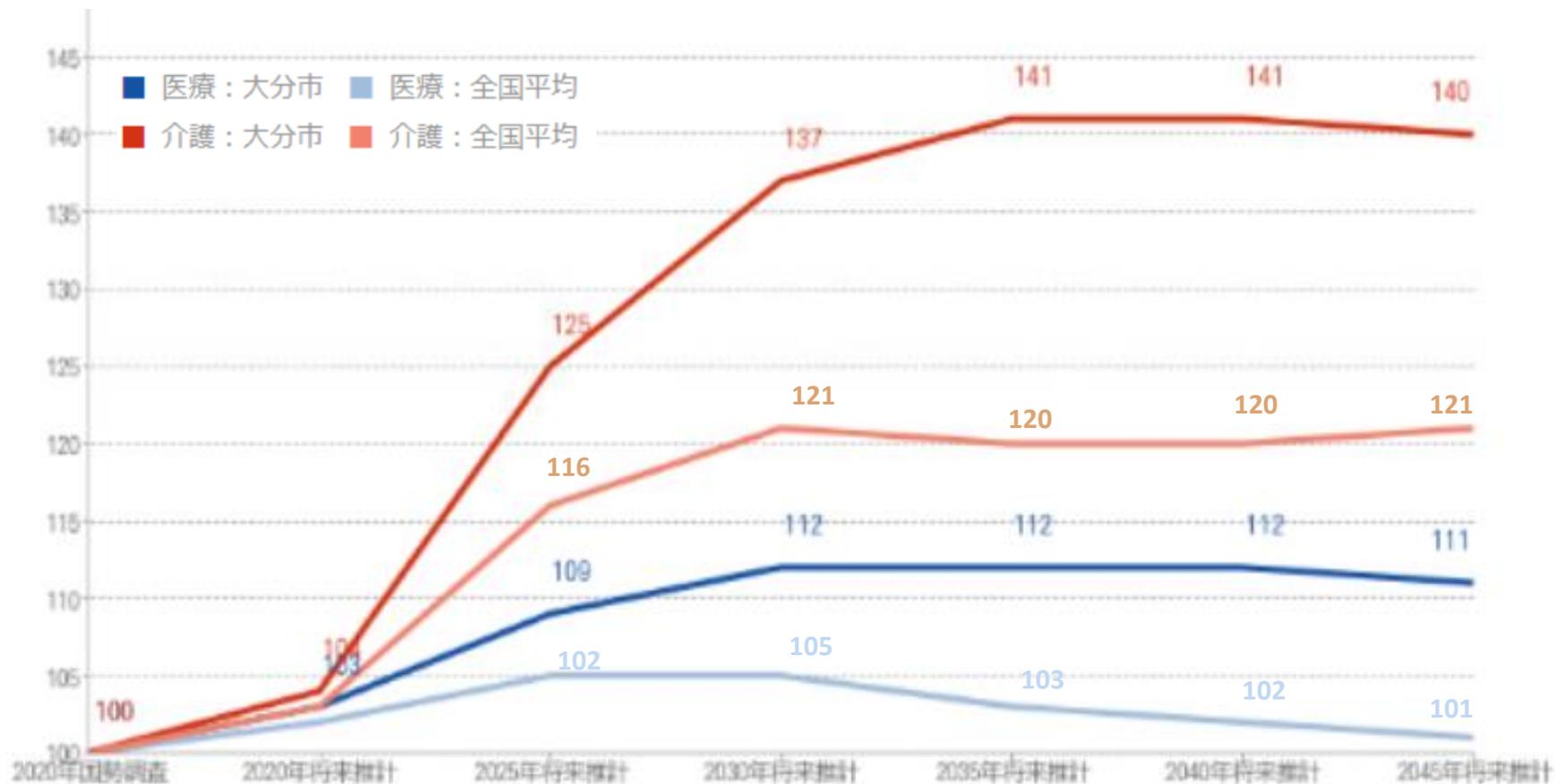
◆市全体における65歳以上の割合は28%。高齢化率が最も高いのは、佐賀関地区で57.8%で、他の年齢区分の割合も最少となっており、まさに少子高齢化に直面

	人数			割合 (%)		
	計	男	女	15歳未満	15～64歳	65歳以上
本庁地区	204,161	96,792	107,369	12.8	61.1	26.1
鶴崎地区	82,748	40,371	42,377	15.2	58.8	26.1
大南地区	25,899	12,435	13,464	11.0	56.9	32.1
植田地区	79,984	37,932	42,052	11.8	52.8	35.4
大在地区	29,778	15,419	14,359	15.6	65.9	18.5
坂ノ市地区	20,688	10,285	10,403	17.8	58.1	24.1
佐賀関地区	7,464	3,508	3,956	3.7	38.5	57.8
野津原地区	4,045	1,924	2,121	7.4	46.0	46.6
明野地区	20,601	9,861	10,740	12.1	57.1	30.8
大分市合計	475,368	228,527	246,841	13.1	58.6	28.3

※資料：住民基本台帳人口（令和5年6月末時点）四捨五入の関係で一致しない場合がある。

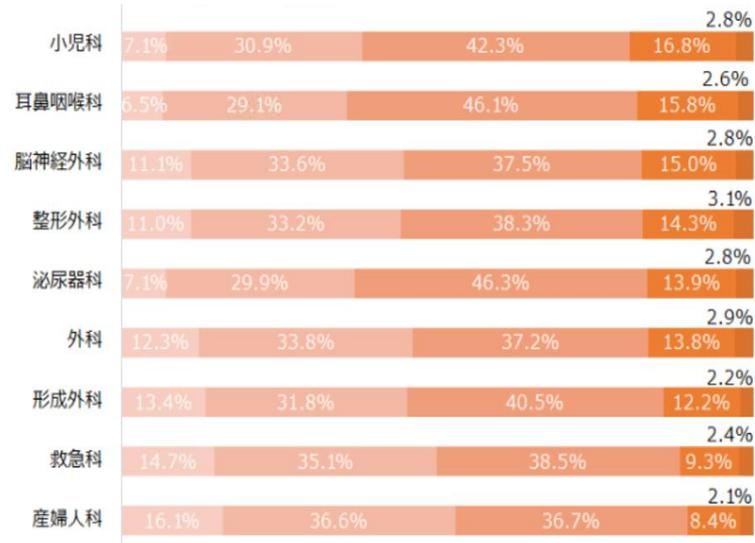
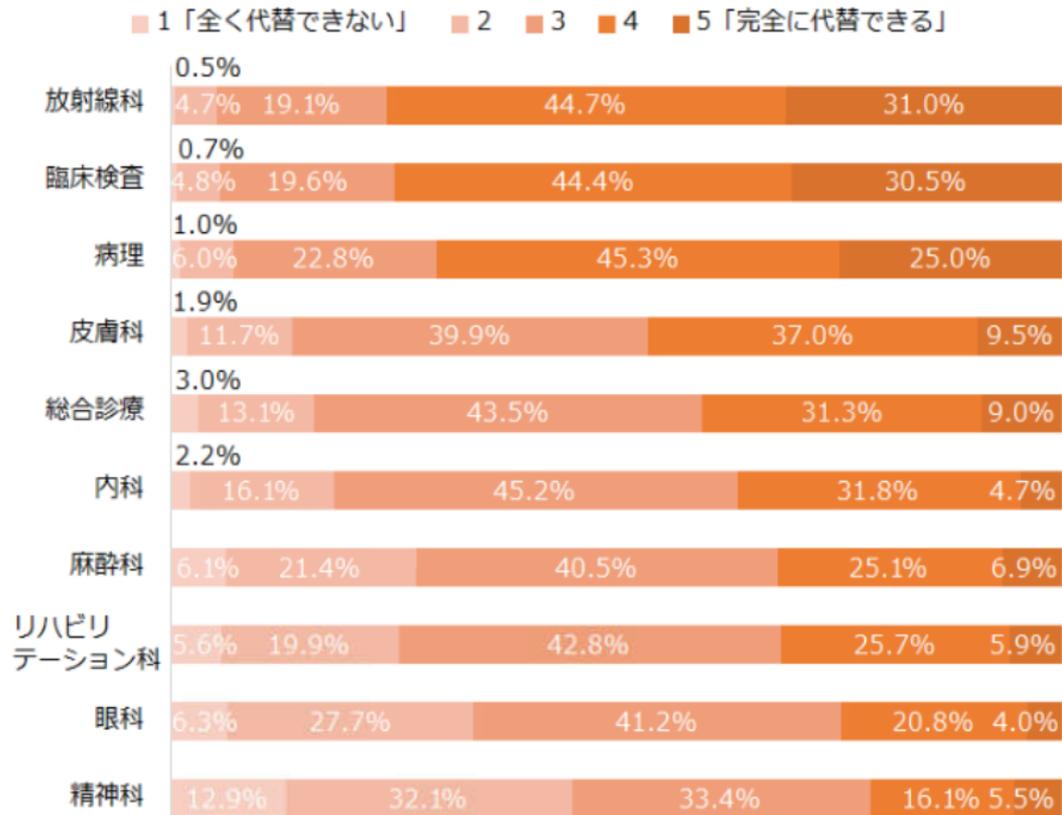
大分市の医療介護需要予測指数

◆本市における医療と介護の需要予測は、全国平均を上回る



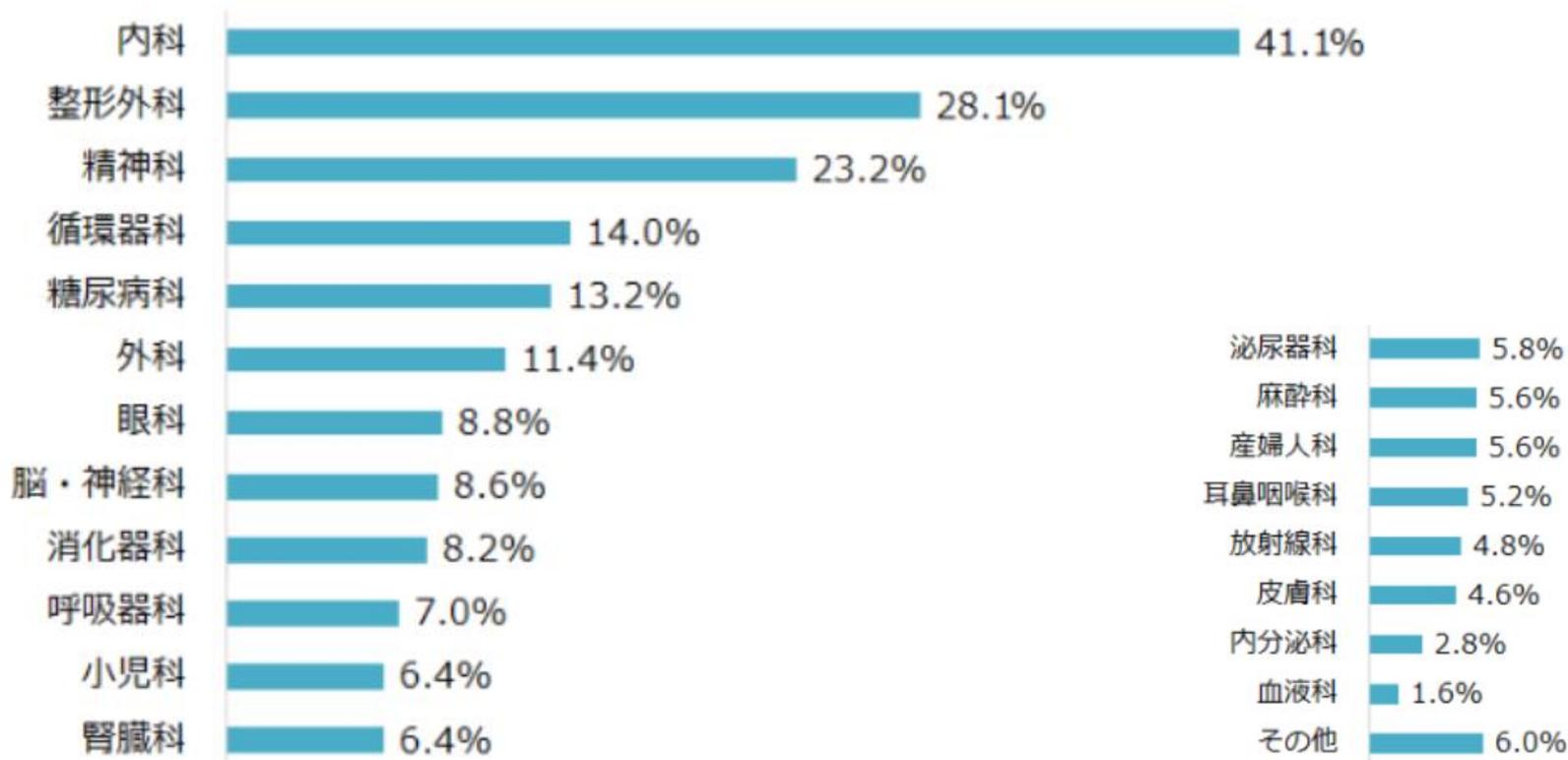
AIと医療（診療・診断）の未来

◆20年後AIが代替するとの回答は、「放射線科」が最多



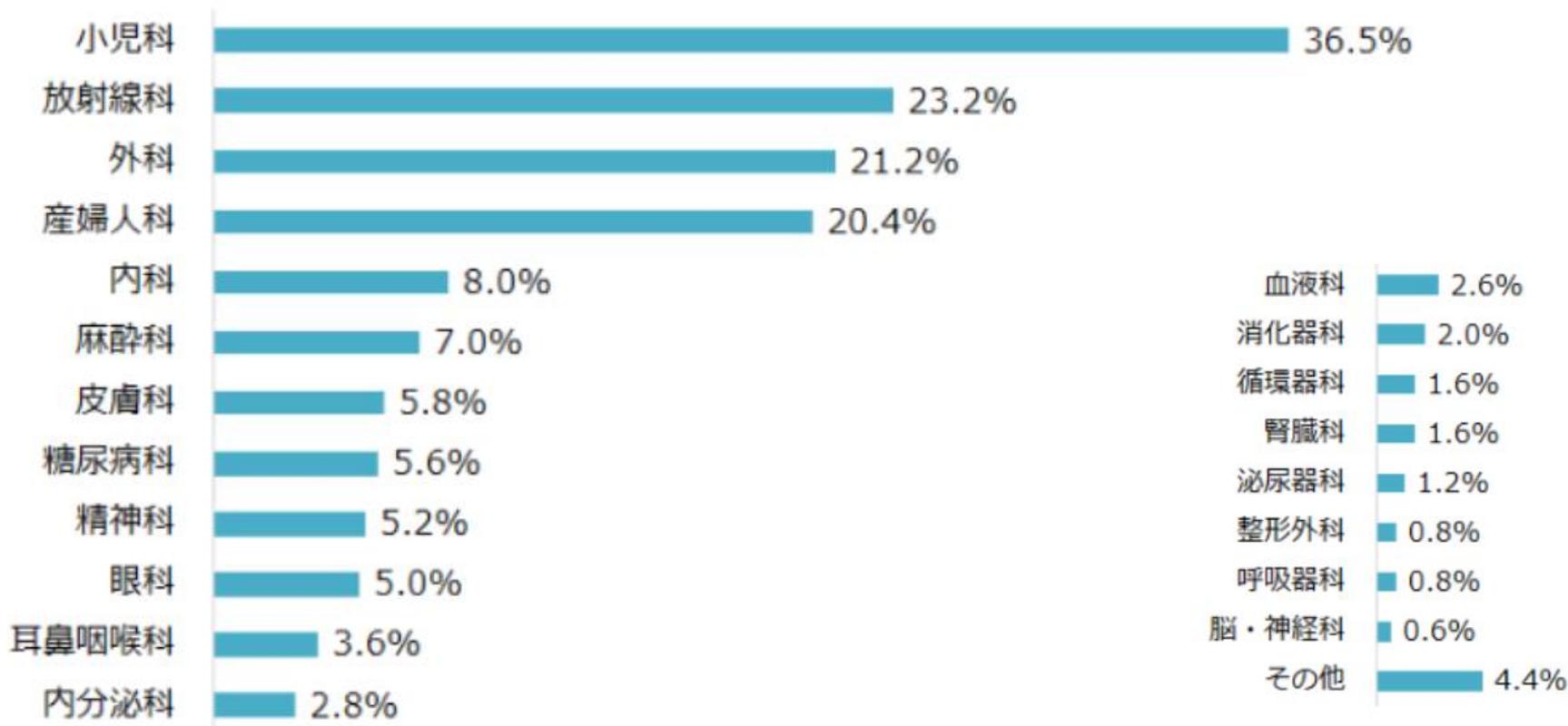
将来ニーズが高まる診療領域

◆ **ニーズが高まる** 予想は、「**内科**」が最多



将来ニーズが下がる診療領域

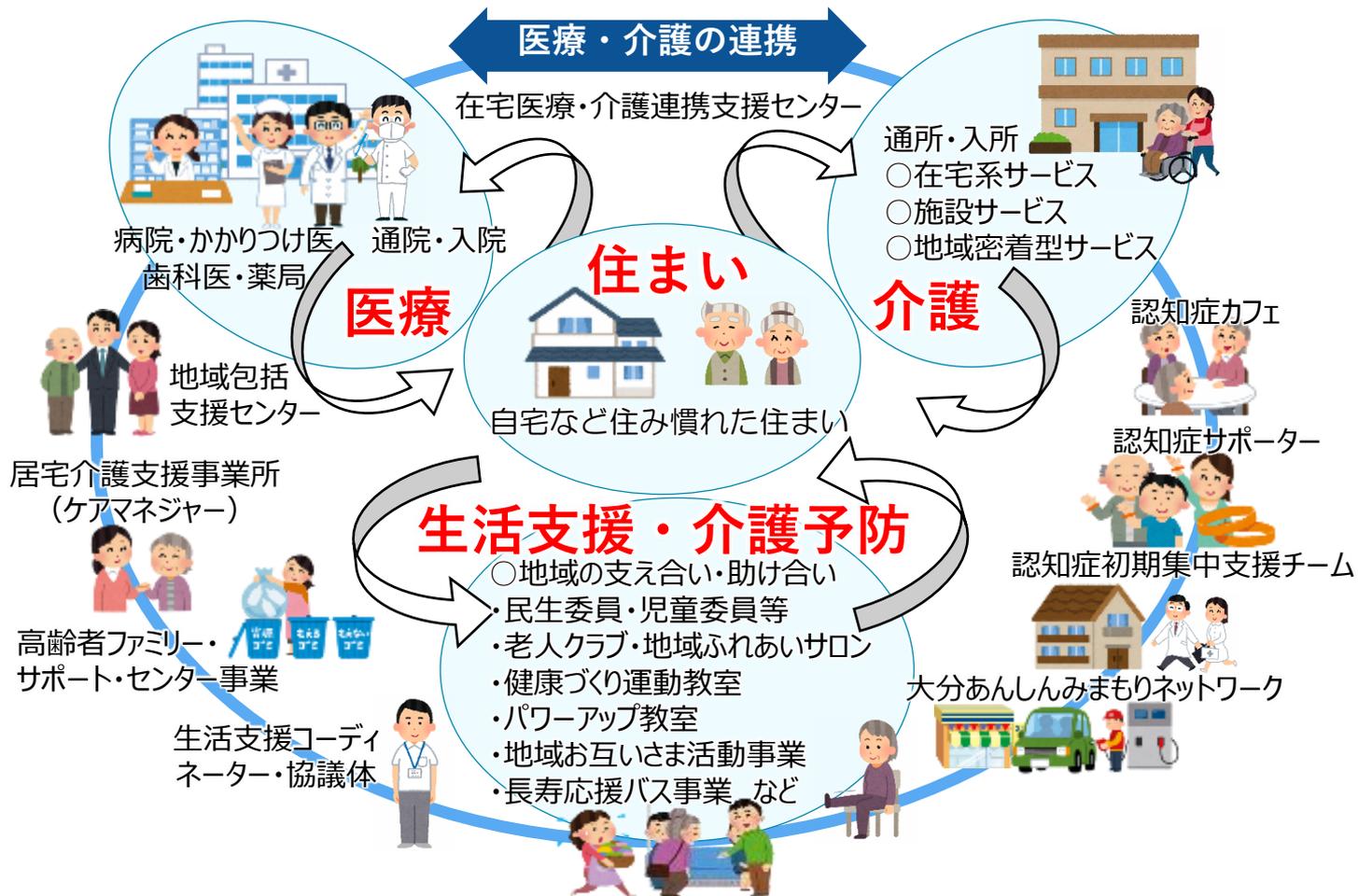
◆ニーズが下がる予想は、「小児科」が最多



ひとを守る・支える

地域包括ケアシステム ～医療・介護などの一体的な提供～

大分市の地域包括ケアシステムの概要



大分市の施策の体系図

地域包括ケアシステムの構築・推進

基本目標

① 自立した生活を継続するための支援、介護予防・重度化防止の推進

② 尊厳ある暮らしを続けるための支援体制の推進

③ いつまでも安心して暮らせるための福祉の充実

④ 健やかに生活できるための生きがいづくりの支援

施策の展開

- ◆ 自立支援・介護予防に関する普及啓発、重度化防止の推進
- ◆ 健康の保持増進
- ◆ 在宅医療・介護連携の推進
- ◆ 地域ケア会議の推進

- ◆ 普及啓発・本人発信支援
- ◆ 認知症への備え・医療・ケア・介護サービス・介護者への支援
- ◆ 認知症バリアフリーの推進
- ◆ 若年性認知症への支援・社会参加支援
- ◆ 高齢者の尊厳を守る施策の強化

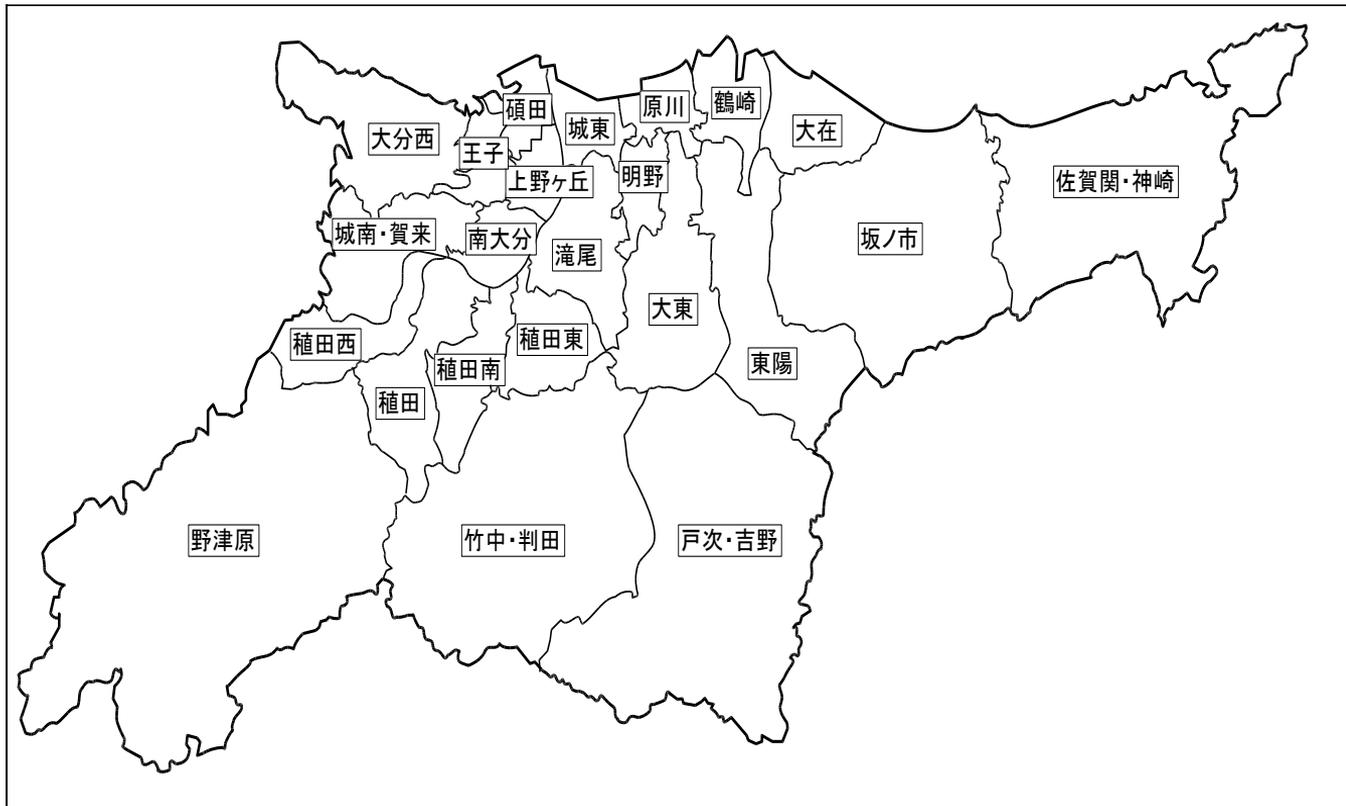
- ◆ 高齢者福祉サービスの充実
- ◆ 介護保険サービスの体制整備
- ◆ 高齢者の施設・住まいの基盤整備
- ◆ 介護職をはじめとする人材の確保
- ◆ 災害や感染症対策に係る体制整備

- ◆ 社会参加活動の促進
- ◆ 生きがいづくり対策
- ◆ 生活支援の体制整備

現状の具体的な事業例

◆地域包括支援センターの設置（23の日常生活圏域）

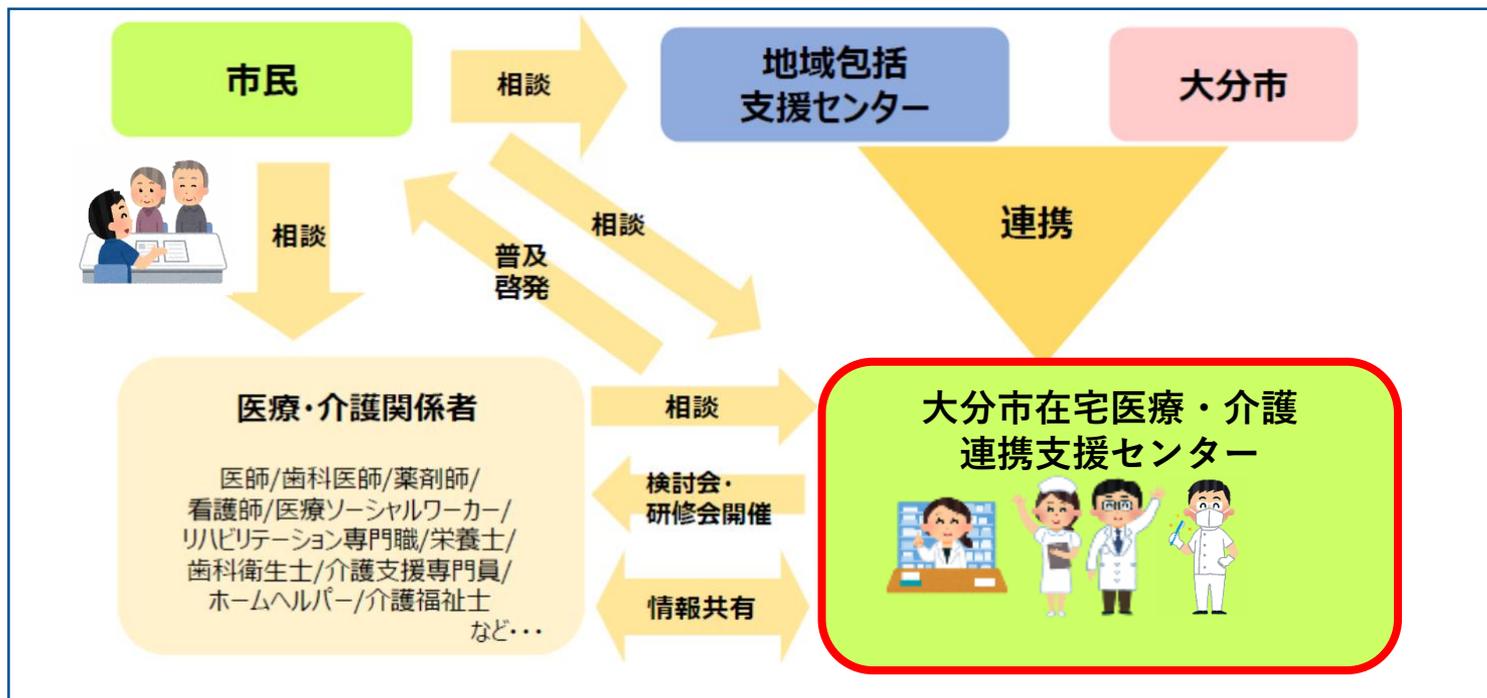
※ **中学校区を基本**に高齢者人口の増加、地理的条件、生活形態等を総合的に勘案して設定



現状の具体的な事業例

◆大分市在宅医療・介護連携支援センターの設置

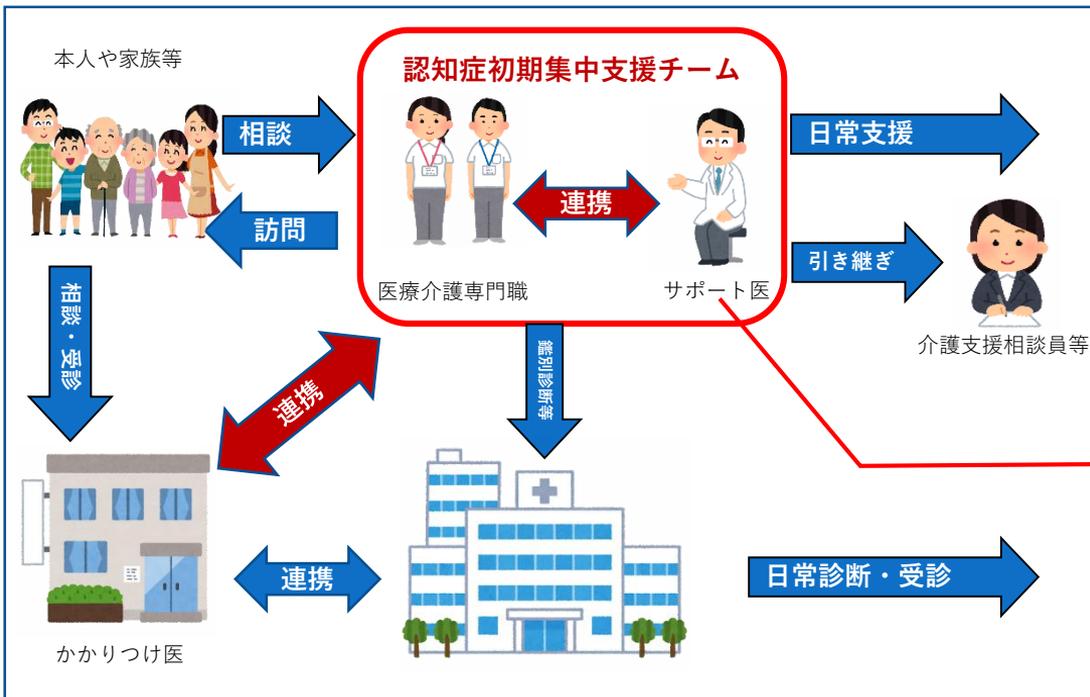
医療ニーズと介護ニーズを併せ持つ在宅の高齢者を地域で支えていくため、「大分市在宅医療・介護連携支援センター」を設置し、在宅医療・介護に関する相談支援や情報提供、医療・介護関係者の連携支援、研修や講演会の開催などを行う。



現状の具体的な事業例

◆認知症初期集中支援推進事業

認知症サポート医（15名）等で構成する「認知症初期集中支援チーム」を長寿福祉課に置き、認知症が疑われる方などを訪問し、アセスメント、家族支援などの初期の支援を包括的、集中的（おおむね6カ月）に行うことで、自立生活のサポートをする。



認知症初期集中支援チーム サポート医一覧		
	医療機関	サポート医
1	わかば台クリニック	山内 千代
2	衛藤病院	衛藤 龍
3		大谷 康清
4	松本内科循環器科クリニック	松本 悠輝
5	大分共立病院	岡 真一郎
6	河野脳神経外科病院（認知症疾患センター）	河野 義久
7	佐藤病院	萩原 聡
8	帆秋病院	帆秋 伸彦
9	大分下郡病院	松下 卓郎
10		宮本 武司
11	だいかく病院	大角 秀一
12		元森 照夫
13	緑ヶ丘保養園（認知症疾患センター）	白坂 真男
14	よつばファミリークリニック	藤谷 直明
15	ヒカリノ診療所	平山 匡史

現状の具体的な事業例

◆認知症サポーター養成講座（出前講座）

認知症について正しく理解し、認知症の人や家族を温かい目で見守る応援者を養成する。受講者には「オレンジリング」・「オレンジバッジ」のいずれかを配布する。

※サポーター養成数：50,105人（令和5年3月末時点）



オレンジリングとオレンジバッジ

◆地域お互いさま活動事業

地域住民などのボランティア等で構成された団体が高齢者に対して軽度な生活援助等（掃除、洗濯、買い物、ゴミ出し等）を行うための立上げや継続にかかる運営経費を補助する。

※補助対象数：11団体（令和5年8月末時点）



地域お互いさま活動事業の活動風景

◆市民健康づくり運動教室

健康づくりの推進のため、大分市民健康づくり運動指導者が地区公民館等で運動教室を開催して、全身体操・ストレッチ・脳刺激体操・筋トレ等を行う。

※開催数：201教室（令和5年度実績）



市民健康づくり運動教室の風景

主な課題

◆介護が必要となった主な原因（大分市）

	1位	2位	3位
全体	高齢による衰弱 17.6%	骨折・転倒 15.2%	関節の病気 11.2%
男性	高齢による衰弱 19.7%	糖尿病 13.0%	心臓病 12.5%
女性	骨折・転倒 17.6%	高齢による衰弱 16.4%	関節の病気 12.2%

トップ3は
「フレイル」
に関するもの

課題

自立した生活を維持

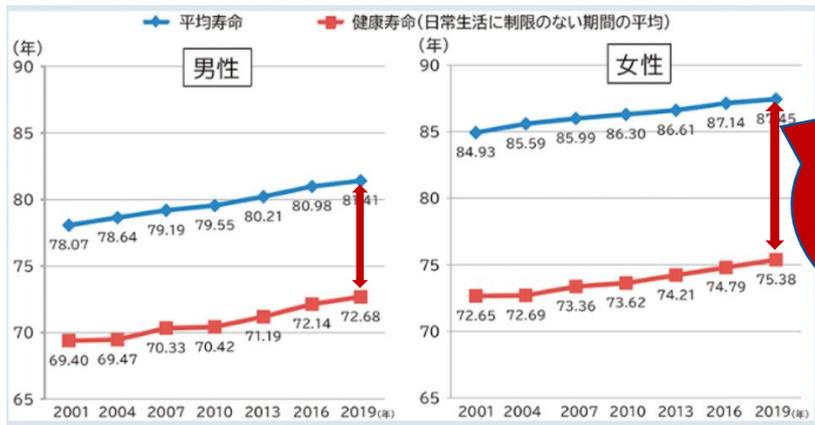
するため、健康づくり

や介護予防に取り組み

、健康寿命を延ばすこ

とが重要

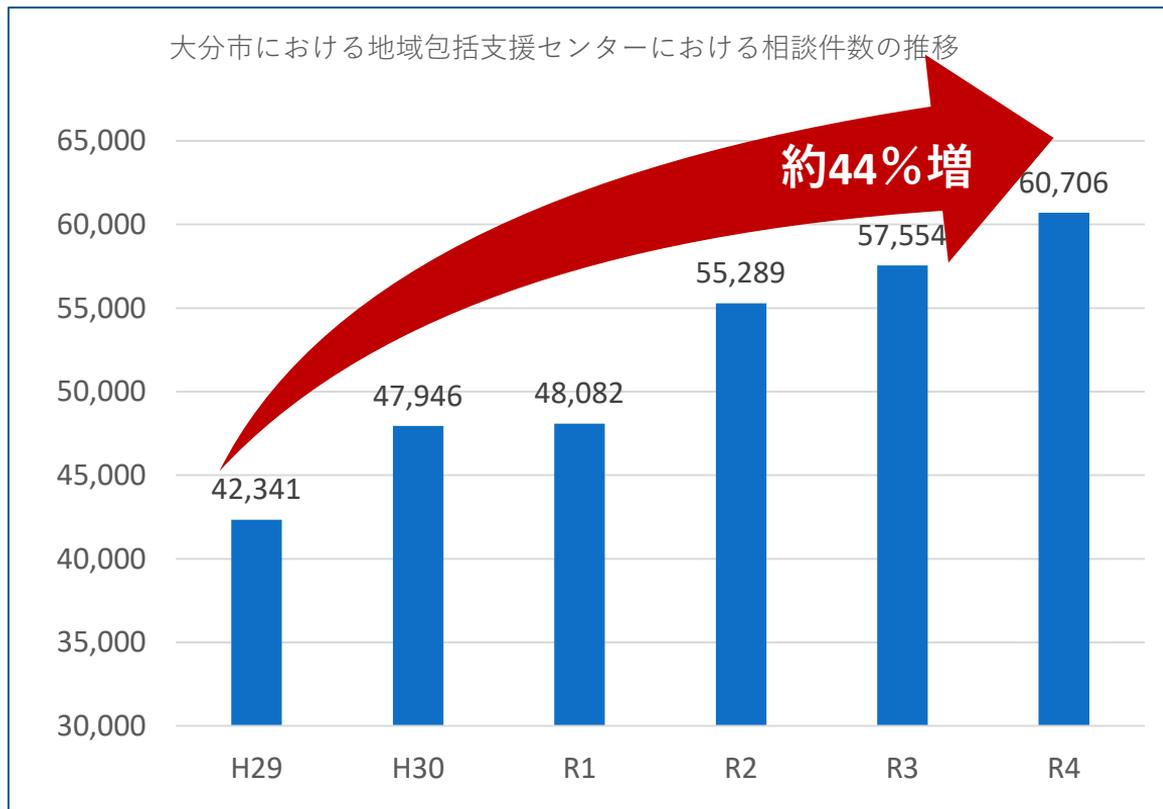
◆平均寿命と健康寿命の推移（全国）



女性：12.07年
男性：8.73年
※平均寿命と健康寿命の
差（2019年時点）

主な課題

◆重要性が増す地域包括支援センター



※大分市長寿福祉課調べ

課題

高齢者の総合相

談窓口である地域

包括支援センター

の機能強化

ひとを守り・支える

医療・介護の今後の展望について

将来的な展望の一例（イメージ）

◆ChatGPT × AI

1. ChatGPTとは

- 生成AIのひとつで、命令に応じて文章を生成する人工知能のこと。
- 効率化やアイデア創出といった観点から、様々な場面での活用が期待されている。
- 情報漏えい、回答結果の信憑性や根拠の不明確性、著作権の侵害などのおそれがある。



2. AIの活用例

- アンケートにおける自由記述部分の回答内容をディープラーニング技術を用いて自動で分類
- MRI（磁気共鳴画像）においてディープラーニング技術を用いた高いノイズ低減効果により、撮像時間の短縮と画質の向上を実現



3. ChatGPT × AI

- アンケートなどの自由記述からAIで自動分類した結果に対して、ChatGPTが解析や改善策を提案する。
- レントゲンなどの医療画像からAIが自動診断し、症状をChatGPTが教えてくれる。

将来的な展望の一例（イメージ）

◆小学生のピロリ菌抗体測定検査

1. 概要

- ・ピロリ菌への感染は胃炎等の症状が進行しない限り、**気付くことが難しい**。
- ・現在、実施している小学5年生時の**血液検査の機会**を活用し、胃がんなどの原因となるピロリ菌の**早期発見と治療**に結びつける。
- ・次世代を担う子どもたちの**胃の病気の治療や予防**へとつなげる。



（イメージ）

2. 現状

- ・**小児生活習慣病の予防**などを目的とした血液検査を、小学5年生時に希望者する者へ実施しており、**希望者は約85%**である。
- ・2014年、**世界保健機構（WHO）**が胃がん対策として、**ピロリ菌検査**と陽性者に対する**除菌治療**を行うよう**勧告**している。
- ・ピロリ菌の陽性者は**胃がんリスクが5倍**、また胃がん症例の**99%がピロリ菌に感染**している。

※国立がん研究センターがん対策情報センター

3. 今後の観点等

- ・胃粘膜の萎縮のない**若いうちに**、できるだけ**早く除菌**することが**大切**である。
- ・ピロリ菌の**感染は主に幼小児期**に成立すると考えられる。 ※日本消化器病学会
- ・ピロリ菌は**小学5年生以降に新規感染**することはほとんど**ない**。 など

将来的な展望の一例（イメージ）

◆大分市地域医療情報ネットワークを介護分野へ展開

1. 概要

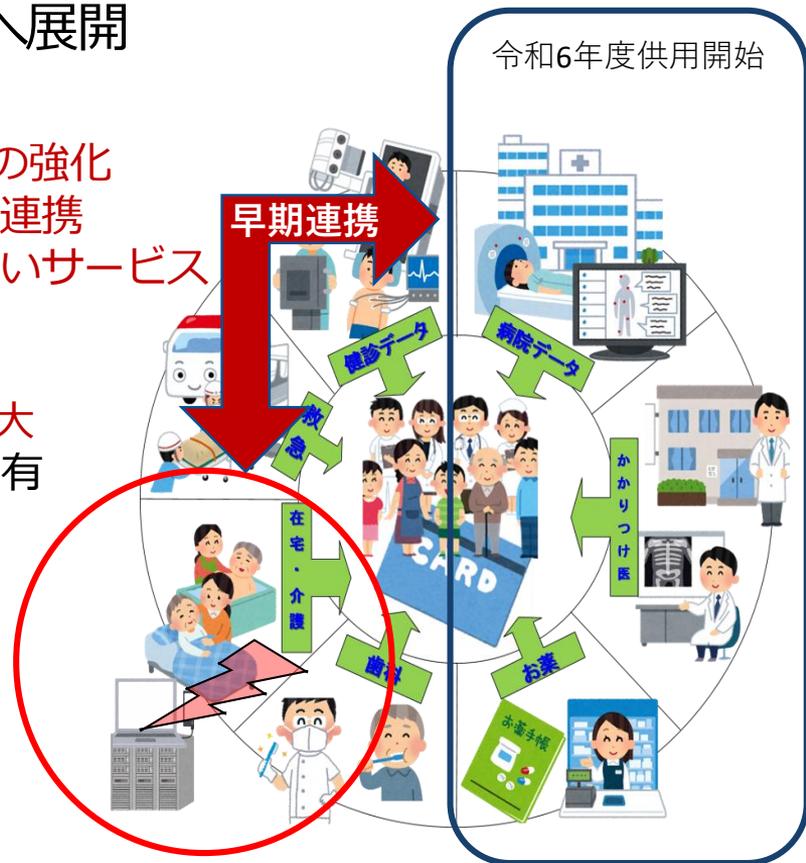
- ICTを活用した効果的・効率的な医療・介護提供体制の強化
- 大分市地域医療情報ネットワークを活用したさらなる連携
- 迅速かつ適切な患者等の情報共有・連携による質の高いサービス

2. 現状

- システム構築、運用面の最終調整、参加医療機関の拡大
- 令和6年度から医療情報等を病院・診療所・薬局で共有
- 副市長をトップとする庁内の推進体制を構築

3. 今後の観点等

- 国による介護情報の標準化等の進捗
- 医療・介護現場が必要とする連携ツールの検討
※国の「全国医療情報プラットフォーム」等の動向を注視しながら検討
- 医療・介護関係機関との検討体制の構築 など



将来的な展望の一例（イメージ）

◆地域包括ケアシステムを全世代へ展開

1. 概要

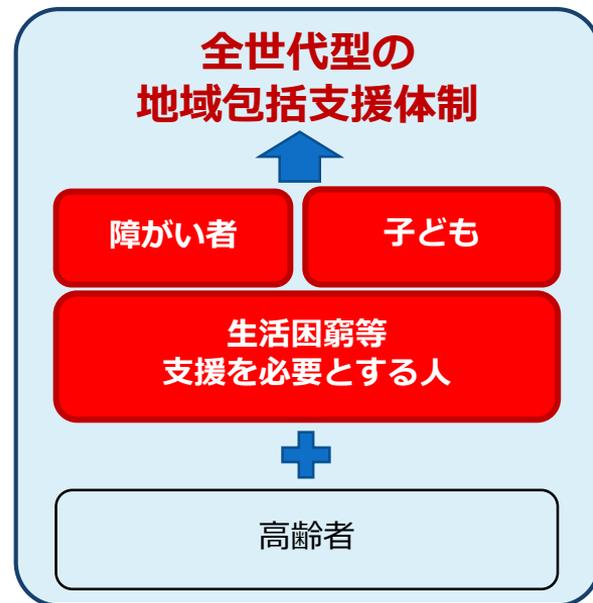
- ・子どもから高齢者等まで**誰もが支え・支えられる**地域の実現
- ・地域包括ケアシステムを「**全世代型の地域包括支援体制**」へ進化
- ・人口減少等で衰退が危惧される**地域コミュニティ**を下支え

2. 現状

- ・**高齢者**を対象とした**地域包括ケアシステム**を構築・推進
- ・**中学校区**を基本とする**23圏域**に**地域包括支援センター**を設置
- ・対象外である子育てなどの**他分野**とも**情報共有・連携**

3. 今後の観点等

- ・対象となっていない**教育**や**福祉**（子ども食堂など）の分野を加える
- ・学校における健康診断等を行う**校医**や日常の健康を守る**かかりつけ医**の関与
- ・対象者やその世帯への相談支援体制を**分野横断的かつ包括的**に構築
- ・**複数分野**の支援を**総合的に提供**する方法
- ・**全世代の対象者**への**包括的な支援**を担う人材 など



全世代型の地域包括支援体制（イメージ）

※割愛

本日のまとめ

オール市民でまちを創る

one team ITA

ワンチーム
おおいた

ご清聴ありがとうございました